

# 1 年次演習

クラス C (佐藤・濱本・島村：主担任濱本クラス)

担当：濱本正太郎

shotaro@kobe-u.ac.jp

<http://www2.kobe-u.ac.jp/~shotaro/>

## 1. 1 年次演習の目的

これまで、大学入試に取り組んできたときには、1 + 1 は 2 だったし、「べし」は当然・推量・可能・命令だったし、too... to... は so... that... not... に書き換えることができた。なにより、問題集の後ろには答がついていたし、先生に訊けば答を教えてもらうこともできただろう。そのような勉強は、確かに多少の空しさを覚えさせるものではあるけれども、高校生には必要だったし、これからも必要である。イチローもランニングをするし、ピカソも写実画を描く。

しかし、大学で扱う問題は、答があるものばかりではない。むしろ、答があるかどうかははっきりしないことの方が多い。そもそも、答があるのなら、図書館かジュンク堂にでも行って本を読めばすむのだから、答を教わりにわざわざ大学に来るのは時間とカネの無駄である。大学の存在意義は、答があるのかどうかははっきりしない問題について考え、学ぶところにある。既製の答を憶えるのは学生の仕事ではない。考えて、考えて、考えて、「何がわからないのか」をわかろうとするとところから、大学生活が始まる。

法学部の 1 年次演習は、特に法学部生向けに構想された、「大学生活への招待」である。ここで、新入生諸君は、法学部 4 年間の知的鍛錬に耐え得るだけの基礎体力と基本的な道具を与えられる。すなわち、この 1 年次演習は、新入生諸君の 4 年間を決定する重みを持つかもしれないのである。

## 2. 濱本担当部分の概要

プラトン『国家』を読み、議論する。そのねらいは、次の 2 つである。

まず、「古典」を読む習慣をつけることである。古典は、大学で学ぶ全ての事柄の基礎となる。あなたが世界史上名を残すほどの大天才であるならば、自らの力に頼るのみでも、何かを成し遂げることができるだろう。しかし、所詮、法学部にいるような者は、どこの大学であっても——学生も教員も——秀才であるとしても、天才ではない。ならば、ある問題を考える上で、これまでに先人が積み上げてきた努力を振り返ることは、

最低限の出発点である。そのためには、まずは「古典」に取り組むことである。次々に現れる新しい作品に埋もれることなく、時間の経過に摩滅してしまわない作品には、時代を生き抜いてきた力がある。これからの4年間、諸君は、「今、現在」の法問題・政治問題を中心に学ぶことになる。秒進分歩とも言われる圧倒的な情報の流れに覆い尽くされることのないようにするためにも、古典という確かな足がかりを得ておくことは貴重である。

古典を読むことは、将来国際舞台で活躍したいと思っている学生には、とりわけ必要である。たとえば、フランスのバカロレア（高校卒業試験＝大学入試）の第1日の最初の科目（必須）が「哲学」であること、そして、たとえばその第3問にカントのテキストが引用され、「これについてコメントせよ」という問題が出ることをご存じだろうか。たとえば、アメリカの大学の「政治思想入門」（「政治思想」ではない。「……入門」である）で、半期4ヶ月の講義の間に『国家』クラスの古典を4冊読んでそれぞれについて書評を書く課題が出ることなど例外でも何でも無い、ということも知っているだろうか。あなたは、将来、そのような教育を受けてきた人たちと同じ舞台上で勝負することになる。ならば、今のうちから準備しておこうではないか。

もう一つのねらいは、まさに、プラトン『国家』を読み込むことである。教材に付した Allan Bloom の Interpretative Essay を見ていただきたい。2400年前のこの作品に対して、まるで昨日書かれた論文と対決するかのごとく、Bloom は辛辣な批判を加えている。そのこと一つをとっても——『国家』については、毎年このような論文が次々に発表されている——、この古典が如何に特別なものであるか理解できるだろう。実際、プラトン対話編の最高峰とも言われるこの作品は、ヨーロッパの法・政治体制の根本に位置するものとして、毀誉褒貶にさらされつつ読み継がれてきた。新入生諸君は、『論語』なら一部なりとも読んだことがあるだろう。『論語』が「宇宙第一の書」（伊藤仁齋）であるならば、その100年ほど後に生まれた『国家』は、安く見積もっても「ヨーロッパ宇宙第一の書」である。これを読まない手は、ない。

1年次演習は、あくまで「大学生活への招待」であり、専門的研究をするための場ではない。また、そもそも担当教員も哲学の専門家ではない。したがって、プラトンを、あるいは『国家』を、文献学的に読み解いたり、哲学史に位置づけてみたりすることはしないし、できない。まして、『国家』という有名な本を教典のごとく恐れ有り難く奉ることは、この演習の目的ではない。この演習は、プラトンのテキスト——そして藤沢令夫の素晴らしい翻訳——を楽しみ、考え、それについて自分の意見を組み立て、それを基にみんなで議論することをねらいとする。対話編を読むことを通じて、対話の作法も学んでみよう。

### 3. 教材

- ・プラトン『国家』（藤沢令夫訳、岩波文庫、上下2冊）  
←神戸大学生協その他書店で直ちに購入すること。
- ・Allan Bloom, “Interpretative Essay”, in Allan Bloom, *The Republic of Plato*, 2nd ed., New York, Basic Books, 1991.  
←課題としては用いない。参考までに配布するので、余裕があれば読んでおいていただきたい。
- ・X 論文（濱本主担任クラス用教材）
- ・T.Y. Henderson, “In Defense of Thrasymachus”, *American Philosophical Quarterly*, vol. 7, 1970, pp. 218-228.（島村主担任クラス用教材）
- ・Julia Annas, “Plato’s *Republic* and Feminism”, *Philosophy*, vol. 51, 1976, pp. 307-321.（佐藤主担任クラス用教材）

### 4. 各回講義の内容

#### a) 第1回

- ・予習課題
  - 1) 『国家』第1巻～第2巻 368a を熟読する。
  - 2) トラシュマコス の立場を 1000 字以内（字数の下限は設定しない）で整理する。
- ・事前提出課題  
予習課題2) を、講義前日の木曜日正午までに、以下のいずれかの方法で提出する。
  - ・第2学舎1階事務室前ゼミボックス前の濱本の棚に入れる。
  - ・shotaro@kobe-u.ac.jp に送信する。いずれの場合も、氏名および学籍番号を明記すること。
- ・講義内容  
提出された課題を基に、全員で議論する。
- ・課題について  
『国家』の幕開けは、ベートーヴェンの4番かシューマンの2番を思わせる。序奏のあまりの静けさと予定調和的展開に退屈しかかった頃、好漢（暴漢）トラシュマコスがマッコに第一主題をかき鳴らす。

読み始めてすぐに明らかなおり、『国家』の主人公はソクラテスである。そのソクラテスの話し相手となるのは、グラウコンにせよ、アデイマントスにせよ、ものわかりのいい善良な市民ばかりである。『論語』の顔淵のように、頭は良いかもしれないが、面白くはない。しかし、トラシュマコスとは違う。『三酔人経綸問答』の東洋豪傑君さながら、**might is right** を素朴しかしそれだけ強力に訴え、ソクラテスに正面から挑戦状をたたきつける。

「脳みそ筋肉男」の悲しさか、トラシュマコスは、せっかくがんばるものの、第1巻の最後になってソクラテスにごまかされてしまう。しかし、トラシュマコスが提起した問題はトラシュマコス自身より大きく、ソクラテスも結局『国家』の残りページのほぼ全てをトラシュマコスが提起した問題への回答にあてることになる。では、トラシュマコスは何を言おうとしていたのだろうか。

## b) 第2回

### ・予習課題

1) 第2巻 368a～376e および第4巻 427d～第5巻 474c を熟読する。

予習課題はこの範囲とするが、もちろん、課題となっていない箇所も通して読むことが望ましい。

2) 457d～460e に、誤りだと直感的に思われるショッキングな記述が見られる。このショッキングな記述は、ソクラテスのどのような立場に由来するかを考え、その考えが示されている箇所を見つける（1箇所である保証はない）。字数制限はなく、数行でよい。「その考えが示されている箇所」は、「123a」のように示すこと。

### ・事前提出課題

予習課題2) を、講義前日の木曜日正午までに、以下のいずれかの方法で提出する。

- ・第2学舎1階事務室前ゼミボックス前の瀆本の棚に入れる。
- ・shotaro@kobe-u.ac.jp に送信する。

いずれの場合も、氏名および学籍番号を明記すること。

### ・講義内容

提出された課題を基に、全員で議論する。

### ・課題について

トラシュマコスを振り切ったソクラテスは、グラウコンやアデイマントスの助けを借りつつ、少しずつ歩を進める。そして、一見大きな回り道をし、427d～445e で頂点に

達する。「〈正義〉とはまさに何であるかということも、我々は発見し終えたと主張するとしても、思うに、まんざら嘘を言っているともみなされないだろうね」(444a)。ところが、その「正義」の実践的帰結は、ナチス・ドイツによるユダヤ人虐殺を正当化するかのごときである。どうして、そうになってしまうのだろう。私たちは、ソクラテスに、プラトンに、何らかの反論をすることができるだろうか。

### c) 第3回

#### ・予習課題

##### 1) 第8巻 543a～第9巻 592b

第2回予習範囲の末尾から今回の予習範囲の始まりまで、かなりの部分を抜かすことになる。514a以下の洞窟の比喻など、後世頻繁に引用されることになる部分も含まれている。余裕があれば、ぜひ読んでおいてほしい。

##### 2) ソクラテス(プラトン)は、この部分において民主制・民主主義を激烈に批判する。ソクラテス(プラトン)の民主制批判を要約する。箇条書きでよい。

#### ・課題について

ソクラテス(プラトン)は、史上最強の民主主義批判者と言えるだろう。「自由・平等・博愛」のフランス革命からロベスピエールとナポレオンが生まれ、大正デモクラシーで治安維持法が成立し、労働者と農民を解放するロシア革命がスターリンを登場させ、世界史上最も民主的と賞賛されたヴァイマル憲法体制下で選挙によりナチスが政権を掌握したことを知る我々にとって、『国家』の民主制批判は戦慄を覚えさせられるものでさえある。民主制の何が問題なのだろうか。これだけの民主制批判にも拘わらず、それが多くの国で維持されている理由は何なのだろうか。

### d) 第4回

#### ・予習課題

##### ・濱本主担任クラス

##### 1) X論文(著者名は講義後に明かす)

##### 2) 著者は、プラトンの正義論を徹底的に攻撃している。その攻撃を1000字以内で整理する。

- ・島村主担任クラス

- 1) Henderson 論文

- 2) Henderson 論文は、「トラシュマコスを弁護する」というタイトルである。著者がどのようにしてトラシュマコスを弁護しているか、1000 字以内で整理する。

- ・佐藤主担任クラス

- 1) Julia Annas 論文

- 2) Annas は、冒頭第二段落でこの論文の結論をあらかじめ示している。著者がどのようにしてこの結論に到達しているか、1000 字以内で整理する。

- ・事前提出課題

予習課題 2) を、講義前日の木曜日正午までに、以下のいずれかの方法で提出する。

- ・第 2 学舎 1 階事務室前ゼミボックス前の瀆本の棚に入れる。
- ・shotaro@kobe-u.ac.jp に送信する。

いずれの場合も、氏名および学籍番号を明記すること。

- ・講義内容

提出された課題を基に、全員で議論する。

e) 第 13 回 (瀆本が主担任するクラスのみ)

- ・レポート課題

第 4 回講義で、プラトン『国家』を徹底批判する論文を配布する。それを整理した上で、その批判が当たっているかどうかにつき、自己の考えを述べる。4000 字以内。